様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24 年　4 月　4 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2011
課題番号：２０５３０１２５
研究課題名（和文）途上国におけるローカル・ガヴァナンスとアソシエーションとのシナジー型発展の研究
研究課題名（英文）A Study on the Synergic Development between Local Governance and Association in the Developing World
研究代表者
松下　冽（MATSUSHITA　KIYOSHI）
立命館大学・国際関係学部・教授
研究者番号：５０２２９４６５

研究成果の概要（和文）：
インドのケーララ州およびブラジルのポルト・アレグレは、広範な市民参加を通じた民主的なローカル・レベルでのガヴァナンス構築に成功した。その要因は多様であるが、市民社会の発展とそこにおける各種アソシエーションの決定的役割、さらには州政府を含む「政治社会」の積極的な応答姿勢が確認される。この点での研究成果は「５．主な発表論文等」にあげている。メキシコでは、アソシエーションの発展を通じたローカル・ガヴァナンスの構築は遅れている。これは、拙著『現代メキシコの国家と政治』で分析した。
研究成果の概要（英文）：
Democratic local governances based on the lower-class mobilizations have achieved the success in Kerala, India and Porto Alegre, Brazil. We can consider the background of those two local governance’s success, focusing on the connection with the civil society and the strong association (see, the following). In Mexico, it is too complicated for social movements to construct synergy of the “state-society” relations (see, my book, *State and Politics of Modern Mexico*).

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：比較政治学
科研費の分科・細目：政治学・政治学
キーワード：民主的分権化、アソシエーション、シナジー型発展、参加型予算、民衆キャンペーン、民主的ローカル・ガヴァナンス構築、ケーララ・モデル

１．研究開始当初の背景

(1)一般的な背景・動機

研究申請時における研究の一般的な背景・動機には、グローバル化が引き起こす現実的・学問的インパクトの検討が不可欠との認識があった。とりわけ、途上国政治を研究の中心的領域に位置付けている研究代表としては、グローバル化の諸現象と諸結果がもっとも明瞭に現れ、またそうした状況のもとで市民の具体的・実践的諸活動が営まれる彼等の生活空間であるローカルな場に焦点を当てた研究課題が緊急に要請された。

(2)　研究の学術的背景

上記の課題と関連した学術的背景から「分権化」、「参加」、「シナジー」、「ガヴァナンス」という概念が注目され、その実践的研究を踏まえたうえでそれぞれの概念の豊富化と評価が重要となった。

①「分権化」は近年、とくに 1980 年代以降、多様な意味合いをもって語られてきた。とくに、世界銀行が分権化に注目し始めてからは、民主化の推進や「参加型」プロジェクトの強調とも結びついて、地方分権化は発展途上国でも広範に推進されてきた。しかし、今日、「分権化」や「参加」は、様々な事例研究においてその内容が一般にイメージされているほど単純ではないことが指摘されてきた。

②また、「ガヴァナンス」研究、とくに「グローバル・ガヴァナンス」研究は、実に多様な領域で様々な意味内容を伴って進められており、「ガバメントからガヴァナンス」はある意味で一種のブームである。

③他方で、パートナーシップ論や「公 - 私」協力論、「非営利セクター」研究にも注目すべき成果があがっている。レスター・サロモン等が中心となっているジョンズ・ホプキンズ大学の研究プロジェクトは、国家 - 市場 - 市民社会の「パートナーシップ」を豊富化している。

④本研究で特に注目する「シナジー」概念は、「分権化」や「参加」に比べまだ拡がっていないし、検討されていない。しかし、客観的諸条件の融合・蓄積や主体的アクターの相互依存、あるいは「相互エンパワーメント」、さらに社会資本に関連して極めて重要かつ創造的な概念である。 Peter Evans, “Government Action, Social Capital and Development: Reviewing the Evidence on Synergy”, *World Development*, Vol.24, No.6, 1996.の問題提起を受けて徐々に「シナジー」の具体的事例や条件が研究されつつある。この意味でも、「シナジー」概念は「パートナーシップ」概念との関連での様々なレベルから検討する価値がある。

そこで、本研究では、ローカルなレベルでの下からの民主的なガヴァナンス構築の現実と可能性を「シナジー」概念を組み合わせることで具体的に検討する。

本研究の貢献は海外の途上国政治分野の比較研究や地域研究の近年の成果に深く連なるものであるが、「シナジー」概念を「ローカル・ガヴァナンス」構築と結びつけた発想に基づく比較研究は内外の学術的研究ではほとんど見受けられない。以上の意味で、本研究は途上国における比較政治、民主主義論、秩序構築論などにも積極的・独創的な貢献を行いうると考えた。

２．研究の目的

(1)「グローバル化」が急速に進展する今日こそ、ローカルな空間と場における市民生活の創造的・自発的な発展と民主主義的・参加型分権化の構築が必要かつ不可欠であるとの視点から、ブラジル、メキシコ、インドの３ヶ国のローカルな実践の経験を踏まえて、これらの対象地域におけるローカル・ガヴァナンスの現実と可能性についての比較研究を行うことにある。同時に、グローバル・リージョナル・ナショナル・ローカルな各レベルの重層的・総合的考察と視座が現代世界の解明にとって避けられない課題となっていることをも意識している。

(2)ローカル・ガヴァナンスの構築には制度的側面と主体的・運動的側面の動態的な分析が前提となる。単なる一側面の分析のみでなく、両者の相互作用の結果が「グッド・ガヴァナンス」を担保できる。この意味で、本研究はローカル・ガヴァナンスの構築の諸ファクター、とくにアソシエーションに注目した研究を目指している。ローカルな空間でのアクターは、各レベルのローカルな政府、政党、企業組織、社会運動やNGOs、草の根運動など多岐にわたっている。しかも、これらの様々な諸アクターの現実社会におけるその行動様式は複雑であり、その性格も単純かつ機械的には確定しにくい。したがって、諸アクターの歴史的、具体的、個別的研究が必要になる。

(3)上記した多様なアクターがそれぞれの利点と優位性を発揮して、ローカル・レベルで「グッド・ガヴァナンス」をいかに構築し、また構築してきたのか。また、その条件と要素は何か。これらの課題に注目し、上記の３ヶ国の特定の地域を対象に分析し、「シナジー型ローカル・ガヴァナンス」の視点から理論化しようとした。

３．研究の方法

研究方法については、現地調査（各組織や運動体、大学および研究機関、ローカルな公的機関、自治体ネットワークなどでのインタビュー、アンケートを含む）と理論研究・資料分析とを有機的に結びつけた。

とくに現地調査では、メキシコについては、メキシコ国立自治大学（UNAM)、モンテレイ工科大学、コレヒオ・デ・メヒコなどの大学および研究機関の多くの研究者、およびその強いネットワークから協力を得た。また、ブラジルでは、サンパウロ大学（USP)、リオ・グランデ・スール連邦大学(UFRGS)他の研究機関の研究者から協力と支援をうけた。インドではおもにケーララの開発研究所（CDS)

を拠点に調査を行った。

４．研究成果

(1)　具体的な研究成果としては、メキシコ、インド、そして理論的考察についての下記の雑誌論文および図書が挙げられる。

①単著、『現代メキシコの国家と政治――グローバル化と市民社会の交差から――』は「メキシコの政治面を根源的に論じた本格的分析書」、「日本におけるラテンアメリカ研究の中で、政治論において理論と実証を目指した画期的な著作」(『図書新聞』2010 年 7 月 31 日）との評価を得た。

②インドについてはケーララ州の分権化の現状についてピープルズ・プランを中心に考察した。その際、この州の歴史的な社会運動の展開や「ケーララ・モデル」の意義と限界に注目した。この研究成果は下記の 2 論文である。

③本研究の理論的考察と分析枠組みについては、「グローバル・サウスから民主主義を再考する――参加型ローカル・ガヴァナンスの制度構築――」で制度面から一定程度提示した。

④なお、本研究の総合的成果として、『重層的ガヴァナンス構築／民主主義／新しい社会運動』（ミネルヴァ書房：仮題）を「立命館大学学術図書出版推進プログラム」の助成をうけて出版することが決まっている。

(2)　研究ネットワークの構築と関連資料の収集・蓄積という点では、今後の研究の発展に関連して貴重な学問的財産と言える。

大学や研究所を中心にしたネットワーク構築では、代表例だけを例示すれば、メキシコではメキシコ国立自治大学（UNAM)、モンテレイ工科大学、エル・コレヒオ・デ・メヒコ、インドでは開発研究所（CDS)、そしてブラジルではサンパウロ大学、リオ・グランデ・ド・スル連邦大学（UFRGS）の研究者たちとの連携強化がある。

資料収集の面では、研究対象地域の分権化・民主主義・アソシエーションに関する資料と文献、およびガヴァナンス研究動向に関連する理論書をかなり収集できた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計８件）

①松下　冽「インド・ケーララにおけるガヴァナンス構築と社会運動（下）――「政治社会-市民社会」関係の視点から――」」『アジア・アフリカ研究』、査読有、第 52 巻第 1 号、2012 年 1 月、56-68 ページ

②松下　冽「インド・ケーララにおけるガヴァナンス構築と社会運動（中）――「政治社会-市民社会」関係の視点から――」」『アジア・アフリカ研究』、査読有、第 51 巻第 4 号、2011 年 10 月、27-47 ページ

③松下　冽「インド・ケーララにおけるガヴァナンス構築と社会運動（上）――「政治社会-市民社会」関係の視点から――」」『アジア・アフリカ研究』、査読有、第 51 巻第 2 号、2011 年 4 月、1-31 ページ

④松下　冽「民主的ローカル・ガヴァナンスとシナジー型「国家-市民社会」関係（下）――インド・ケーララ州が提起する課題」『立命館国際研究』、査読有、23 巻 3 号、2011 年、65-105 ページ

⑤松下　冽「民主的ローカル・ガヴァナンスとシナジー型「国家-市民社会」関係（上）――インド・ケーララ州が提起する課題」『立命館国際研究』、査読有、23 巻 2 号、2011 年、89-120 ページ

⑥松下　冽「民主的移行期における「国家-社会」関係変容の一側面（下）――サリーナス政権期のローカル政治を中心に」『立命館国際研究』、査読有、22 巻 3 号、2010 年、153-191 ページ

⑦松下　冽「民主的移行期における「国家-社会」関係変容の一側面（上）――サリーナス政権期のローカル政治を中心に」『立命館国際研究』、査読有、22 巻 1 号、2009 年、101-126 ページ

⑧松下　冽「メキシコ農村から見た NAFTA の軌跡と現実（下）――農村の貧困化とトルティーリャ危機」『アジア・アフリカ研究』、査読有、48 巻 2 号、2008 年、2-34 ページ

〔学会発表〕（計２件）

①松下　冽「途上国は新自由主義型グローバル化を超えられるか―途上国政治研究の課題」アジア・アフリカ研究所（『アジア・アフリカ研究所創立 50 周年記念シンポジウム―今、AALA をどうとらえるか―』)、2011 年 5 月 21 日、明治大学リバティータワー8 階 1087(東京都)

②松下　冽「ラテンアメリカと新自由主義―その起源からポスト新自由主義まで、そしてメキシコの位置―」、東アジア地域研究会、2008 年 6 月 14 日、京都大学(京都府)

〔図書〕（計４件）

①松下　冽、東信堂、「民主主義の民主化と越境する市民社会/社会運動」（奥田宏・佐藤誠他編『エティック国際関係』、2011 年、全,123-142 ページ分担

②松下　冽、御茶の水書房、『現代メキシコの国家と政治――グローバル化と市民社会の交差から――』、2010 年、470 ページ

③篠田武司・西口清勝・松下　冽、御茶の水書房、『グローバル化とリージョナリズム』、2009 年、430 ページ、(179-225 ページ分担)

④松下　洌、法律文化社、「グローバル・サウスから民主主義を再考する――参加型ローカル・ガヴァナンスの制度構築――」（加藤哲郎他編『グローバル化時代の政治学』2008年、261ページ、27-68ページ分担）

〔産業財産権〕
○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

６．研究組織
(1)研究代表者
松下　洌（MATSUSHITA　KIYOSHI）
立命館大学・国際関係学部・教授
研究者番号：50229465